

# げんき



こども病院  
ニュースレター



# カエル



平成 27年(2015) 8月1日

## 「げんきカエル」100号に向かって



病院長 長嶋 達也

「げんきカエル」が50号の発行を迎えることができましたことを、皆様とともに喜びたいと思います。2003年(平成15年)6月30日に創刊(中村肇院長・当時)して、12年が経ちました。創刊号にはこども病院のエンブレムと「げんきカエル」の由来や、2002年開設の救急医療室の記事が掲載されています。毎号の変化はわずかですが、2011年には新病院基本構想が決まり(丸尾猛院長・当時)、来春の移転が待ち構えている今日までの年月を振り返ると、この10年余りの変化の大きさを感じます。

新病院の建築は予定通り進み、すでに覆いの一部が外されて外装を見ることが出来ます。5月末に内部を視察しましたが、全体に広くなり、特に集中治療室、救急センターや手術室は新しい機能に対応できる広さと効率を備えた素晴らしいものになります。小児がんや心疾患の専用病棟も整備し、新たに在宅医療支援病棟も開設いたします。MRI

も2台体制になり、予約待ちから解放されます。今後、新しい医療情報システムの整備や内装の仕上げが進みます。家族滞在のための新しい施設はマクナルドハウスに運営が委託されることになり、多くのボランティアの皆様のご支援をいただきます。一方、病院が新しくなったからといって手術成績や看護の質が急に向上するわけではありません。新しい病院へ移ることを契機に、あらゆる専門職種がより一層高いレベルの医療を目指します。移転先のメディカルクラスターの発展をけん引する勢いで一丸となって診療に取り組みたいと思います。

ところで、「げんきカエル」で経営について語れることはほとんどありませんが、こども病院は2008年から黒字を維持しています。現代の医療では、「安全な医療」や「高い医療の質」を経営の安定なしには達成することができません。むだのない健全な経営に基づいて、「医療の安全と質」を支える優れた医師や看護師をはじめマンパワーの確保と十分な設備投資を行ない、国際的なレベルで一流の小児病院と認められる施設になりたいと思います。

病気を「治すこと」により生まれる「希望」、病気や障害とともに生きていくこともと親を「支えること」「つなげること」により生まれる「安心」が、こども病院の変わることの無い価値です。多くの皆様の期待を担って、100号に向けて一歩一歩着実に歩み続けたいです。



## 副院長兼看護部長としての抱負

副院長兼看護部長 藤久保 真季



兵庫県立こども病院が、ポートアイランドに新築移転する1年前という重要な時期に、副院長兼看護部長という役職を拝命し、責務の大きさに心引き締まる思いがしております。平成25年に看護部長として当院に赴任して2年が経った今、私に課せられた役割は、新病院に求められる質の高い医療を提供できる基盤作りであると考えております。

まずは、新病院に向けて、安全で安心な看護を提供するための看護師の確保・定着と育成が最重要課題です。小児看護を目指す看護学生が少なくなってきたと言われていた中、こどもの未来を支える小児看護の魅力を可視化すること、やりがいを持って看護を提供できる人を育てる環境を整えることが必須です。このため、こども達と家族が笑顔になる「小児看護は、笑顔看護」のスローガンのもと、核となる師長を中心に、パートナーシップ・ナーシングシステム(PNS)を導入し、看護の可視化・伝承・伝授、安全な看護の提供、人材育成に取り組んでいます。

また、新病院移転にあたり職員一丸となりたい病院作りをしていこうという、気持ちを

高揚させる仕掛け作りが必要であると考えております。患者家族に満足していただける病院となるには、まず職員が満足できる職場づくりをしていかなければなりません。シンプルで効率的なルール作り、様々な業務のスリム化など、働きやすい職場環境となるよう新病院移転を好機として推し進めていきたいと考えております。

来春、46年ぶりに新しく生まれ変わる兵庫県立こども病院は、高度専門医療を提供する病院であると同時に、患者と家族がゆとりとぬくもりを感じられる病院となります。来院される皆様に、質の高いサービスが提供できますよう、努力していきたいと思っておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。



新病院イメージキャラクター  
「かえるくん」

## 立ちくらみ、朝の体調不良、不登校、意識消失

⇒ 自律神経調節障害が原因かも！



循環器科医長 小川 禎治

人間の心拍数や血圧を決めているのは主に自律神経です。自律神経の調節がうまくいっていない場合には、①立ちくらみ、②動悸・ふらつき・倦怠感・頭痛・腰痛・嘔気（主に午前中の）、③それらを原因とする不登校、および④意識消失などの症状を来します。

自律神経調節障害の有無・タイプ・重症度を調べる検査としてヘッドアップチルト検査があります。ベッドを70度に傾けたままで、心拍数と血圧を監視し続けます。自律神経の調節がうまくいっていないお子様では、心拍数や血圧が乱高下します。

この検査は、平成24年に日本においても承認されました。当院も昨年に施設認定を受け、今年の6月に至るまでに約60人のお子

様に同検査を行ってきました。

自律神経調節障害の診断がついた場合には、生活指導（水分摂取、塩分摂取、運動など）や内服薬処方を行います。多くのお子様で、症状の改善や完全消失がみられております。お子様ご本人やご両親の喜び様を拝見すると医療従事者としてとても嬉しくなります。

なお、上記の症状は自律神経調節障害以外の疾患が原因であったり、自律神経調節障害と他疾患の両方が併存していたりする場合があります。そこで、循環器科のみならず、救急集中治療科、総合診療科、脳神経内科、脳神経外科、精神神経科などのスタッフとも力を合わせて多角的な診療を行う場合があります。



ヘッドアップチルト検査中の光景（モデル：瓦野医師）





## スプリングコンサート HCU 病棟 井口 秀子

4月6日にスプリングコンサートを開催し、今回の演奏者は小学生と中学生でした。

久野愛さんは小学2年生、3歳よりヴァイオリンを始められ第5回国際ジュニア音楽コンクール第1位、第6回全日本芸術コンクール2位など受賞多数。今回モーツァルト作曲、ヴァイオリン協奏曲、第3番第一楽章を演奏されました。

中野愛さんは中学2年生、3歳よりヴァイオリンを始められ2011年関西弦楽コンクール優勝及び審査員賞受賞、2012年間コンクール優秀賞、2013年ベテラン音楽コンクール大阪本選会優秀賞など受賞多数。現在桐朋子供のための音楽教室茨木教室弦楽合奏科在籍。今回メンデルスゾーン作曲、ヴァイオリン協奏曲第一楽章ほかを演奏されました。

藤原凜斗さんは中学2年生、3歳よりピアノを8歳からヴァイオリンを始められ2013年日本クラシック音楽コンクールピアノ部門小学校高学年の部第4位、2013年日本クラシック音楽コンクールピアノ部門小

学校高学年の部第3位、2015年日本パッサコンクールベスト賞受賞など受賞多数。現在大阪市ユースオーケストラに所属。今回ショパン作曲子犬のワルツ、ベートーベン作曲悲愴ソナタ 第3楽章ほかを演奏されました。

演奏者のみなさんと夢をかなえてドラえもん・勇氣100%・アナ雪などを演奏され、こども達・ご家族と合唱する機会もありました。こども達が音楽に合わせて体を揺らしたり、踊り出したりする場面もありリラックスできると共にクラシック音楽や楽器がより身近に感じられる機会になったのではないのでしょうか。今回たくさんのこども達、御家族、スタッフに聴きに来て頂き、癒しのひと時となりました。コンクールを目指して日々練習に励む演奏者のこども達と、病気に立ち向かい日々治療と闘うこども達がお互いに知り合うことにより、より励みになればと思います。



### Concept コンセプト

● **基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

### ● 基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実現
2. 安全・安心と信頼の医療の提供
3. 高度に専門化したチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



### 編集後記

皆様のご協力のもと「げんきカエル」は50号発行という節目を迎えました。これからも様々な情報を発信していきたいと思えます。

編集委員長：橋本ひとみ

編集委員：大津雅秀 大西美樹  
 渡田繁紀 山本正子  
 沼田重作 坂本有里恵  
 岡岡繁宏 福本宏文

本誌に関するご感想・ご要望・ご質問はこちらまで



## 兵庫県立子ども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター  
 小児がん医療センター 小児心臓センター

〒654-0031 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1  
 TEL 078-732-6961  
 FAX 078-732-0910 (総務課)  
 FAX 078-732-6960 (予約センター)  
 URL <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>  
 E-mail: info\_kch@info.prof.hyogo.jp